

コッコロ 通信

vol.21
2010/11



うれしいよ
小さな言葉も
大きな勇気



広がれ広がれ優しい気持ち。
あの大空のむこうまで。

つながれつながれ友だちのわ。
今は知らないあの子まで。

もくじ

2~3P 特集 12月4日~12月10日は人権週間です!!

4~5P 人権インタビュー 「拉致問題について」

北朝鮮による拉致被害者家族連絡会 齋藤 文代 さん

6P 身近な人権活動 「水俣病をめぐる人権について」

水俣病資料館語り部 杉本 肇 さん

7~8P お知らせ



12月4日～12月10日は 人権週間です!!

人権週間ってなあに?

①20世紀の2度にわたる世界大戦は……

生命・自由・身体の安全を脅かす深刻な人権侵害をもたらし、世界中の人々に深い傷跡を残した。

②戦争や悲惨な体験とその反省から……

第3回国連総会で「世界人権宣言」を採択
(昭和23年12月10日)



世界各国で様々な人権啓発活動が行われています。

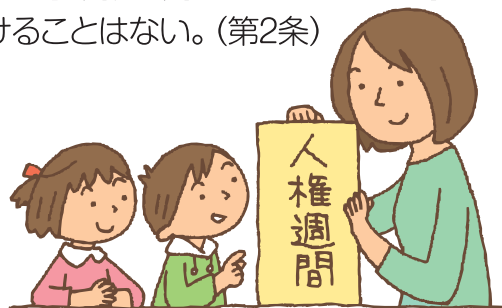
※世界人権宣言の内容

- すべての人間は、生まれながらに自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。(第1条)
- すべての人は、人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治上の意見、社会的出身、財産、門地など、いかなる事由による差別をも受けることはない。(第2条)



③日本では……

人権デーの12月10日を最終日とする1週間を「人権週間」と定め、人権尊重の理念の普及のための啓発活動を全国的に展開しています。



人権に関連する記念日や週間

12月は、人権週間のほかにも、人権に関連する様々な記念日や週間が定められ、様々な啓発事業が実施されます。こうした機会に、それぞれの問題の理解を深めましょう。

• 犯罪被害者週間(11月25日～12月1日)

犯罪被害者やその家族または遺族が立ち直るためには、その状況や心情についての理解を深めることが必要です。

• 世界エイズデー(12月1日)

エイズに関する正しい理解が、エイズの蔓延防止とエイズ患者・HIV感染者に対する差別、偏見の解消につながります。

• 障害者週間(12月3日～12月9日)

誰もが暮らしやすい社会への理解を深めるとともに、実現に向けて、それぞれができることを考えてみましょう。

• 北朝鮮人権侵害問題啓発週間(12月10日～12月16日)

国・社会を挙げて取り組むべき課題の1つであり、この問題についての関心と認識を深めていくことが大切です。



人権週間イベントのお知らせ

熊本県では、県民のみなさんが楽しみながら気軽に参加でき、人権について関心をもっていただけるようなイベントを開催します。是非、ご参加ください!

●「コッコロ ギャラリー ～人権啓発パネル展～」

- とき 12月4日(土) 12:00～16:00
- ところ びふれす広場(熊本市上通町2)
- パネル展

2007年12月より全国各地で巡回写真展として開催されている「対岸の肖像」のパネルや、その他の人権啓発のパネルを展示します。

- テレビスポットCM上映会
九州各県で制作されている人権啓発のテレビスポットの上映会を行います。
- 人権メッセージ募集
会場で人権メッセージを募集します。また人権メッセージは、会場内に設置する「人権ツリー」に飾っていただけます。
- アンケート、クイズ
アンケートやクイズの回答を提出していただいた方には、プレゼントを用意しています。

●「人権啓発パネル展」

- とき 12月6日(月)～10日(金)
8:30～17:00
- 場所 県庁新館ロビー

●「人権啓発ビデオ上映会」

- とき 12月6日(月)～10日(金)
10:00～16:00
- 場所 県庁新館2階人権センター

みなさんのご参加をお待ちしています♡



コッコロの達人 桜田幸子



人権メッセージ募集のお知らせ

- 募集内容……………人権に関するメッセージや標語など(50字以内。形式は自由)
- 募集期間……………学校・企業・各種団体等でまとめて応募する場合 **平成22年10月18日(月)から11月30日(火)必着**
個人で応募する場合 **平成22年10月18日(月)から12月10日(金)必着**
- 応募方法等……………住所、氏名、年齢を明記のうえ、郵送、FAXまたは電子メールでご応募ください。
- 応募資格……………県内在住、または県内へ通勤・通学の方
- 応募上の注意……………応募作品は、自作、未発表のものに限ります。またお一人で複数の作品の応募もできます。(応募作品の返却はいたしません。)
- 応募作品の利用等……………県で10作品程度を選定し、人権啓発活動に使用させていただきます。選定作品をご応募いただいた方には記念品をお送りします。



拉致問題について

北朝鮮による拉致被害者家族連絡会 齋藤 文代 さん

県民の声で国を動かし、一刻も早い拉致問題の解決を

重大な人権侵害である北朝鮮による拉致問題。2002年に、5名の拉致被害者の帰国が実現したものの、未だ安否が分からない方も数多くいらっしゃいます。国際的な問題として、解決には国と国の対話が必要な中で私たちが知っておくべきこと、できることは何でしょうか？今回は、拉致被害者の一人、松木薫さんの姉であり、「北朝鮮による拉致被害者家族連絡会」に所属する齋藤文代さんにお話を伺いました。



Q 松木薫さんの思い出を教えてください。

A 5人兄弟の末っ子として生まれ、初めての男の子だったこともあり、両親が大変喜んだのを覚えています。長崎の外国語大学に進学し、さらにスペインへ語学留学をしたいと言った時には、弟と一緒に暮らしたいと考えていた父は反対したものです。私と母は弟の思いをかなえてあげたい一心で賛成しましたが、それが「拉致」につながるとは思ってもいませんでした。もし止めていれば…と自分を責めたこともあります。

Q 拉致であると分かった時の家族の状況はいかがでしたか？

A 拉致被害者である石岡亨さんが、昭和63年に実家に当てた手紙の中に、弟が平壤で暮らしている様子が書かれており、行方不明だと思っていた弟が拉致されていたと分かりました。家族の間では弟の話をするのがタブーのように感じられ、温かだった家庭が、火が消えたように静かになってしまいました。以来、父は東京の外務省やスペインの大使館、熊本県警に「薫を探してください」「何か情報はありますか？」と必死に尋ねていました。

Q 家族連絡会ではどんな活動をされているのでしょうか？

A 国内外で講演会を開き、政府に拉致被害者の救出を求める署名活動を行っています。私はもともと普通の主婦。人前に出て話すことは苦手ですが、家族である私が皆さんに話さなければ真実が伝わらないと思い、できる限りのことをやろうと頑張っています。家族会の目標は、会員の家族が全員帰ってくること。年配の会員の方も増えており、会えないまま亡くなっていく方もいらっしゃいます。問題の解決には、一刻の猶予も残されていないのです。



Q 活動を通じて、どのようなことを感じていますか？

A 「頑張ってください」と声をかけてくださる方がたくさんいらっしゃるの、とても心強く感じます。また、講演会などで事実を知った方に応援していただき、多くの方のご厚意で署名が集まり、本当に感謝しています。県民の皆さんにも活動をサポートしていただき、うれしく思っています。弟が無事に帰り、皆さんに「応援ありがとうございました」と言える日が来ることを願っています。

Q 現在の家族の状況はどうですか？

A 家族が一人抜けたことが、普通の生活を一変させるこんなに大きな問題になるとは思っていませんでした。現在、母は病院で寝たきりの生活を送っていますが、弟が帰ってきた時のために、「おかえりなさい」と言う練習をしています。母や家族に1時間でもいいから会わせてあげたい。弟を助け出して、普通の生活に戻りたい。私は長女として、元気に頑張っていかなくてはという強い決意で活動しています。

Q 私たちが拉致問題に対してできることは何でしょうか？

A 拉致問題を忘れずに、関心を持ってほしいと思います。「もし自分の家族がいなくなったら」と考え、少しでも私たちの痛みを感じていただければと思います。また、署名に協力したり、「拉致被害者を助け出してほしい」という要請の手紙を大臣や外務省に送ったりすることは、熊本にいる皆さんにもできる活動です。私たちだけでなく、“国民の声”として届けることで、より大きな力を持つと考えています。

Q 県民の方にメッセージをお願いします。

A 拉致問題は、国同士の政治的な判断が要求される、非常に大きな国際問題です。日朝間の話し合いがなければ、この問題が解決することはありません。しかし、日本政府を動かすためには、国民の声がいちばんの力になります。皆さんも、「家族を助け出すために一緒に戦ってほしい」。それが私たちの切なる願いです。私は弟はいつか必ず生きて帰ってくると信じています。その日まで、ご協力をお願いします。

プロフィール 松木 薫 さん

1953年熊本市生まれ。1980年ごろ、スペイン・マドリードに留学中に消息を絶つ。行方不明当時、27歳。





身近な人権活動

～人権問題についての様々な取組みをご紹介します～

水俣病をめぐる人権について

公害の原点とされる水俣病は、深刻な環境問題や健康被害を引き起こしただけでなく、無理解や偏見による誹謗中傷等の差別といった人権問題も引き起こしました。

今回は、水俣病の歴史や患者さん達の思いを伝える「語り部」として、水俣で活躍されている杉本肇さんの平成21年度のラジオ番組の内容を、再構成してご紹介します。



Q 杉本さんが語り部になられたきっかけを聞かせて下さい。

A 私の両親は「語り部」をしていましたが、私は水俣病の患者ではないし、水俣病のことを語るのはおこがましいと思っていました。水俣病患者だった母は2年前に亡くなりましたが、水俣病がもたらした悲惨さや怖さだけでなく、生きるということに前向きになるような、人に勇気を与えられる語り部でした。私も、子どもの頃に受けたつらい経験を特に子ども達に伝えることで、勇気を与えられる存在になればと思いました。

Q 子どもの頃につらい経験をされたのですね。

A 私が小学生の頃、祖父が水俣病で亡くなり、祖母は水俣病のせいで、イジメを受け、毎日泣いていました。小学校5年生の時には、両親が体調を崩して入院したので、子ども達だけで過ごしたこともあります。私は5人兄弟の長男なので、「しっかりしなきゃいけない」と言われて育ち、夜になると弟達が見ていないところで一人で泣いていました。

Q 語り部の活動を通して、いちばん伝えたいことはどんなことですか。

A 水俣病問題を単に病気の問題として考えるのではなく、生きていくのに必要な権利、つまり人権まで併せて考えることが大切だと思います。水俣の街は、水俣病の被害者と原因企業の従業員が同じ地域で暮らしていますから、私が子どもの頃は、水俣病問題については何も教えてもらっていません。しかし、事実を知ることは大事なことです。水俣病で多くの人がつらい経験をしたという本質を学ぶ必要があると思います。「語り部」から差別を受けた人の話を聞き、「自分は人を差別していないか、他人をちゃんと人としてみつめているか。」と自分に問いかけてみるのが、水俣病だけではなく、あらゆる差別をなくすために大事なことだと思います。私達の「語り部」の活動が、自分を見つめ直し、人権について考えるきっかけになれば、うれしいです。

水俣市立水俣病資料館

開館時間 9:00～17:00

休館日 月曜日 ※月曜が祝日の場合は、その翌日が休み
年末年始(12月29日～1月3日)

〒867-0055 水俣市明神町53番地

TEL/0966(62)2621 FAX/0966(62)2271

ホームページ : <http://www.minamata195651.jp/index.html>





お知らせ

新着図書・DVDのお知らせ

- ◎図書・DVD(ビデオ)は、人権センター内で自由にご覧いただけるほか、無料貸出しも行っていきます。是非ご利用ください。
- ◎DVD(ビデオ)は、1か月前からの予約もできます。

図書

母 -オモニ-

姜尚中 著



「遺品の中から見つかったテープは、文字の書けなかった母から息子への遺言だった……。」植民地支配下の朝鮮から日本に渡り、苦難の道を歩んだ母。読み書きもままならないまま、家族を思い、必死に生きた母への思いが描かれた作品です。

ひらがなにつき

文・若一の絵本制作実行委員会
絵・長野ヒデ子



学校に行くことができなかったため、文字が読めなかった吉田一子さんは、60歳を過ぎてから識字学級で文字を学び始めました。識字作品である日記に、絵日記風の絵をつけて、日常の生活が生き生きと感じられる作品です。

ぼくは8歳、エイズで死んでいく ぼくの話聞いて。

青木美由紀 著



南アフリカでは、エイズによって親を亡くした子どもの数は、2008年には1400万人に上ります。「エイズ=死」ではないという現在においても、環境によっては「いのち」そのものに格差が生じているのです。私達がすべきことはなにか、と問いかける作品です。

橋はかかる

村崎太郎・栗原美和子 著



反省ザル次郎とのコンビで猿回しのブームを作った村崎太郎。被差別部落出身であることを公表した彼の生い立ちを振り返っている。差別を受けた苦しみを知らない人が、それはどういふものかを知ることができる作品です。

DVD

みなまた 海のこえ

上映時間 40分



水俣の美しい自然とともに暮らしていた狐の目を通して、崩壊していく風土を、水俣の方言を交えて描いた絵本を、語り手が情感を込めて、朗読している映像絵本です。

私の中の差別意識

上映時間 24分



結婚差別や就職差別など、部落差別問題はまだまだ私達の心の中に残っています。この作品ではドキュメンタリーを通して、自分の心にある差別意識に気づき、正しい知識や判断力を持つことの大切さを伝えています。

図書・DVD(ビデオ)・啓発パネル一覧を、人権センターホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

<http://www.pref.kumamoto.jp/site/jinken/>

「人権のまち菊陽フェスタ」が平成22年9月18日(土)午後2時から菊陽町図書館ホールで町内外から300人以上が参加し開催されました。イベントの出し物は3つあり、最初に障がいを持った人たちとボランティアが楽しみながら音楽活動を行っている「菊陽虹の会」による太鼓の演奏、次に「菊陽町からの国際化発信」と題し菊陽町で外国にルーツを持つ人たちと関わり合いを持ちながら活動している町立武蔵ヶ丘小学校の「中国・アジア文化クラブ」と「菊陽町帰国外国人教育委員会」の子どもたちによる「浦島太郎」の中国語による朗読と「幸せなら手を叩こう」の歌が披露されました。そして、最後に知的障がい者の余暇サークルとして発足したが、現在では芸能のプロとして世界で活動し、今年は東京国際和太鼓コンテストで優秀賞を受賞した長崎県の「勤労障がい者打楽交流団・瑞宝太鼓」の皆さんによる迫力ある太鼓の演奏がありました。各団体ともステージ終了後大きな拍手が起こりました。特に瑞宝太鼓については予定外のアンコールで参加者もステージに上がるなど、当日のアンケートでも全体が一体となった盛り上がりにとっても感動したとの意見が多く寄せられました。事務局としては「人権という普遍的な文化の構築の主役は町民一人ひとり」というイベントのスローガンのように、町民の人権意識が高まっていくよう、今後も更に内容を検討しながら開催していく必要性を感じています。



人権に関する
相談をお受け
しています。

熊本県人権センターでは、相談員が面接や電話による人権に関する相談をお受けし、助言や情報提供を行っています。(相談は無料。プライバシーは守ります。)

相談時間 9:00~12:00 / 13:00~16:00

下記の相談専用電話までご連絡ください。

熊本県環境生活部人権同和政策課(熊本県人権センター)

住所 〒862-8570 熊本市水前寺6丁目18番1号 [熊本県庁行政棟新館2階]

開館時間 8:30~17:15

休館日 土曜・日曜・祝日・年末年始

電話 [直通] 096-333-2299 [相談電話] 096-384-5822

F A X 096-383-1206

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/site/jinken/>

電子メール jinken@pref.kumamoto.lg.jp

相手を思いやる気持ちの
あたたかさ、やさしさを伝えます。



熊本県人権啓発
マスコットキャラクター「コッコロ」